

## 病害虫発生予報 第6号

(向こう1ヶ月間の発生予報)

### 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
水 稲	穂いもち	全域	並～やや多	並	
	紋枯病	全域	並～やや多	並	
	白葉枯病	全域	やや少	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウンカ	全域	並～やや少	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	並	並	
大 豆	子実害虫類	全域	並	並	
りんご	斑点落葉病	全域	並		
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	やや多		
	ハダニ類	全域	並～やや多		
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	ギンモンハモグリガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並～やや多	並	
な し	黒斑病	全域	並		
	うどんこ病	全域	並		
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	シンクイムシ類		やや多	並	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	やや少	並	

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
も も	せん孔細菌病	全域	多		
	コスカシバ	全域	並	並	
ぶどう	べと病	全域	並～やや多		
	ブドウトラカミキリ	全域	並		
レタス	菌核病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	すそ枯病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	
	腐敗病	全域	並～やや多	並	
アブラナ科野菜	軟腐病	全域	並～やや多	並	
	べと病	全域	並	並	
	黒腐病	全域	並～やや多	並	
	黒斑細菌病	全域	並～やや多	並	
	根こぶ病	全域	並	並	
はくさい	白斑病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	黄化病	全域	並	並	
	モザイク病	全域	並	並	
キャベツ	菌核病	全域	並	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	やや多	並	
	斑点病	全域	並	並	
アブラナ科野菜	コナガ	全域	並	並	
	ウワバ類	全域	並	並	
野菜・花き	オンシツコナジラミ	全域	並～やや少	並	
	オオタバコガ	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	アザミウマ類	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	

## 向こう1か月の気象予報（長野气象台 9月9日発表）

### 1 予想される向こう1ヶ月の天候（9月10日～10月9日）

関東甲信地方では、期間の前半を中心に気温がかなり高くなる見込み。  
天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い。

### 2 向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確立(%)

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10	20	70
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

### 3 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

## 水 稲

### 1 穂いもち

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

7月下旬～8月上旬の降雨が、穂いもちの病勢を進展させるとともに早生種の  
出穂期に遭遇したこと、8月18日頃から10日間程度連続した降雨があったこと  
から、県下各地において広域的な穂いもちの発生につながったと予想される。

特に常習発生地等で穂いもちの発生が多いほ場、窒素過多及び生育が遅れ気味  
の地域(ほ場)では、発生が多くなることが予想される。

(3) 防除上の留意点

穂いもちが発生しているほ場からは自家採種を行わない。

### 2 紋枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、地域によって平年並～やや多い地域がみられた。

### 3 白葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

病害虫防除所巡回調査では、8月の発生は確認されなかった。

(3) 防除上の留意点

常習発生地では、「秋晴」など弱い品種の発生に注意する。

高温、多湿、浸冠水、台風が発生を助長する。

### 4 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、8月は北信地方など一部で多い地域がみられたが、全般的には  
概ね平年並であった。

気象要因(+) 気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

本種の主な被害は籾の品質低下であるが、株当たり数十頭以上発生すると減収す  
るおそれがあるので、多発前に防除を実施する。

有機りん系やカーバメート系薬剤の単剤では、防除効果が劣る場合があるので、  
殺虫剤の選択に注意する。

収穫期が近いので、農薬の使用時期に留意する。

### 5 セジロウンカ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査及び予察灯調査では、8月は平年並～やや少なかった。

気象要因(+) 気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

穂や葉にすす病が見られ、株元に幼虫が多い場合は直ちに防除を行う。

晩植・多肥ほ場で多発しやすい。

中山間のほ場へ集中飛来する場合があるので、過去に多発事例のある地区はほ  
場の見回り時に注意する。

収穫期が近いので、農薬の使用時期に留意する。

### 6 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査及び予察灯調査では、8月は平年並であった。

気象要因(+) 気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い

(3) 防除上の留意点

収穫期が近いので、農薬の使用時期に留意する。

## 大 豆

### 1 子実害虫類(マメシクイガ、シロイチモジマダラメイガ、カメムシ類)

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、カメムシ類などの発生量は平年並であった。

気象要因(+) 気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

発生の多い場合は、7～10日間隔で防除する。なお、近年9月の気温が高めで  
推移し、収穫期間近まで被害が発生する場合があるので、必要な場合には散布間  
隔をみながら9月下旬頃まで防除を行う。

吸実性カメムシ類の生息密度は、畑の周辺部に高い傾向があるので、周辺部へ

の散布は丁寧に行う。

マメシクイガは移動性が低いので、昨年発生が多かった連作地域では被害が発生しやすいので注意する。収穫期が近いので、農薬の適正使用に留意する。

## りんご

### 1 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

これまでの発生量はほぼ平年並であった。

(3) 防除上の留意点

防除基準に従って薬剤を選択し散布する。

### 2 すず点病・すず斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

これまでの発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

降雨が多い場合は9月下旬まで防除する。

### 3 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

巡回調査では、胴腐らんによる主枝、垂主枝の枯死が認められる園もあり、これまでの発生量が全般にやや多かった。

(3) 防除上の留意点

園内を点検して被害枝を除去する。病患部は完全に削り取り、塗布剤を処理する。

初冬期に石灰硫黄合剤またはベフラン液剤 25 を散布する。積雪の早い地域では散布時期を早め、トップジンM水和剤を散布してもよい。

### 4 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多

(2) 予報の根拠

巡回調査では発生量はやや少なかったが、残暑が続くようであればハダニ類の寄生は多くなる。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

発生を認めた場合、早めに殺ダニ剤を散布する。

### 5 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

これまでの発生はほぼ平年並であった。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

防除基準に従って薬剤を選択し散布する。

葉が果実に接していると、接触部の果面が食害されることがあるため、早めに摘葉を行う。

### 6 キンモンホソガ

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では全般に寄生葉率が「平年並」であった。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

防除基準に従って薬剤を選択し散布する。

### 7 ギンモンハモグリガ

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

これまでの発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

防除基準に従って薬剤を選択し散布する。

### 8 スモモヒメシクイ

(1) 予報の内容

発生量：平年並～やや多

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップによる第2、第3世代成虫の誘殺数がやや多かった。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

シクイムシ類で登録のある薬剤を選択し、使用時期等に十分注意して散布する。

## なし

### 1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

発生は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

発病果や病落果は二次感染の原因となるため、定期的に集めて土中に埋める等速やかに処理を行う。

### 2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

気象要因(-)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

8月下旬までの発生は平年並みであった。

乾燥状態が続くと多発しやすい。

秋冷が早いと多発する。

- (3) 防除上の留意点  
発病が多いほ場では早期落葉を防ぐため収穫後の防除を行う。

### 3 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
8月下旬までの発生は平年並みであった。  
(3) 防除上の留意点  
標高差により発生時期が大きく異なることがあるので注意する。  
収穫期に果実の食害を受けることがある。

### 4 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
ナシヒメシンクイのフェロモントラップ(南信農業試験場調査)への誘殺数が平年よりやや多い。  
(3) 防除上の留意点  
薬剤防除に当たっては収穫前日数に十分注意する。

### 5 クワコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
南信農業試験場の8月までの気温による第二世代卵の孵化完了予測日は9月7日であった。(平年は9月7日)  
(3) 防除上の留意点  
発生の目立つ園ではバンド誘殺を行う。その場合、バンド巻きは9月中に行う。

### 6 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
集合フェロモントラップ(南信農業試験場調査)への誘殺数が昨年より少ない。  
気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。  
(3) 防除上の留意点  
越冬地への移動が始まるため飛来数が増える場合があり、特に山際の果樹園では注意が必要。  
収穫終了までは園内をこまめに巡回し、飛来が見られる場合は、直ちに防除する。また薬剤散布にあたっては、農薬の安全使用を遵守する。

## も も

### 1 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：多  
(2) 予報の根拠  
9月上旬までの巡回調査で、全般に葉病斑の発生が目立った。

- (3) 防除上の留意点  
発生園では4-12式ボルドー液またはICボルドー412を9月中旬とその2週間後に散布する。

### 2 コスカシバ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
フェロモントラップによる成虫の誘殺が8月下旬から急増しているが、発生量は平年並であった。  
気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。  
(3) 防除上の留意点  
成虫の発生盛期は9月上中旬である。  
発生園では、落葉後速やかにトラサイドA乳剤、ボーラーカット、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤のいずれかを枝幹に散布する。

## ぶどう

### 1 ベと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多  
(2) 予報の根拠  
9月上旬の巡回調査では急激に病勢が進展し、発生量はやや多であった。  
(3) 防除上の留意点  
発生が多い場合、収穫後にICボルドー66Dまたはボルドー液を散布する。

### 2 ブドウトラカミキリ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並  
(2) 予報の根拠  
発生量はほぼ平年並と推測された。  
(3) 防除上の留意点  
発生園では来春に、防除基準に従って防除する。

## 野 菜

### 1 レタス菌核病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査では、現在までのところ発生は平年並である。  
20以上では発生が抑制され、やや低温多湿下での発生が多い。  
気象要因(-)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。  
(3) 防除上の留意点  
結球初期の殺菌剤散布が重要である。  
防除基準に従って薬剤を選択して散布する。  
常発地や高冷地では、曇雨天が続いた場合に多発しやすいので、この場合は防

除回数を増やす。

## 2 レタス灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、現在までのところ発生は平年並である。

発生の適温は低めである。

気象要因( - ) 気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

結球初期の殺菌剤散布が重要である。

防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

## 3 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

現在までのところ、発生は平年並である。

(3) 防除上の留意点

高畦にして、排水をよくする。

結球初期の殺菌剤散布が重要である。

防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

## 4 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、下葉に発生の多いほ場がみられたが、全般には平年並である。

(3) 防除上の留意点

銅剤、オキシリニック酸剤をローテーション散布する。

害虫の食害痕から発病する機会が多いので、防除を徹底する。

## 5 レタス腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、現在までのところやや多い発生である。

高温多雨で発生しやすい。

(3) 防除上の留意点

天候に応じて予防散布する。

降雨前及び降雨後 24 時間以内の薬剤散布は防除効果が高い。

防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

## 6 レタス軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、一部で発生の多いほ場がみられた。

高温多雨で発生しやすい。

(3) 防除上の留意点

銅剤、抗生物質剤、オキシリニック酸剤をローテーション散布する。

バイオキパー水和剤を用いる場合は、上記薬剤と混用及び近接散布しない。

害虫の食害痕から発病する機会があるので害虫防除に努める。

## 7 アブラナ科野菜軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、ハクサイに発生の多いほ場がみられた。

高温多雨で発生しやすい。

(3) 防除上の留意点

銅剤、抗生物質剤、オキシリニック酸剤をローテーション散布する。

バイオキパー水和剤を用いる場合は、上記薬剤と混用及び近接散布しない。

## 8 アブラナ科野菜べと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、ブロッコリー、ハクサイに発生がみられている。

(3) 防除上の留意点

ハクサイは耐病性品種を用いる。黄芯系品種は本病に弱く多発しやすいものがあるので注意する。

生育初期から薬剤の予防散布を心がける。

## 9 アブラナ科野菜黒腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、ハクサイ、ブロッコリーに発生の多いほ場がみられた。

(3) 防除上の留意点

過湿、過乾、肥切れは発生を助長するので、土壌管理に注意する。

常発地では耐病性品種を用い、予防を主体に防除を実施する。

銅剤、抗生物質剤、オキシリニック酸剤をローテーション散布する。

ベジキパー水和剤を用いる場合は、上記薬剤と混用、近接散布しない。

## 10 アブラナ科野菜黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、ハクサイ、グリーンボールに発生の多いほ場がみられた。

(3) 防除上の留意点

過湿、過乾、肥切れは発生を助長するので、土壌管理に注意する。

グリーンボールは耐病性が弱いので、予防を主体に防除を実施する。

防除基準に従って薬剤を選択し、銅剤、抗生物質剤、オキシリニック酸剤をローテーション散布する。

## 11 アブラナ科野菜根こぶ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。

(3) 防除上の留意点

酸性土壌や排水の悪いほ場は改善する。

定植前の薬剤による防除を実施する。

発病株は早めに抜き取り、こぶが腐敗しないうちに処分する。

## 12 ハクサイ白斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
現在までのところ、発生は平年並である。  
(3) 防除上の留意点  
防除基準に従って薬剤を選択して散布する。  
酸性土壌や肥料切れは発生を助長するので、酸度矯正や適正施肥に努める。

## 13 ハクサイ黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査では、現在までのところ発生は平年並である。  
(3) 防除上の留意点  
品種によって発病程度が異なるので、常発地では耐病性品種を作付けする。  
白斑病同様、肥料切れは発生を助長するので、適正施肥に努める。  
常発地では結球初期より予防散布することが望ましい。

## 14 ハクサイ黄化病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
本病は秋はくさいで発生が多い。  
(3) 防除上の留意点  
連作は避ける。  
結球期になって急に病勢が進むので、発病したら収穫を早める。

## 15 ハクサイモザイク病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。  
(3) 防除上の留意点  
秋はくさいで発生が増加する。発病株は早めに除去する。  
害虫防除がチョウ目害虫に片寄ると多発することがあるので、アブラムシ類にも効果のある剤をローテーション散布の中に組み入れる。

## 16 キャベツ菌核病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査では、現在までのところ発生は平年並である。  
低温多雨で発生が多い。  
気象要因(-)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が長い。  
(3) 防除上の留意点  
被害株はできるだけ早く処分する。特に菌核形成前にはほ場から除去する。

## 17 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠

巡回調査では、北信地域を中心に多発生ほ場がみられている。  
例年、秋雨時に病気の進展がみられる。

- (3) 防除上の留意点  
発病茎、枯死茎は見つけ次第除去し、焼却等により処分する。  
過繁茂にせず、通風を良くする。  
株が弱ると発病しやすくなるので、施肥管理等により株の養成に努める。

## 18 アスパラガス斑点病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。  
例年、秋雨時に病気の進展がみられる。  
(3) 防除上の留意点  
通風をよくするため立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈り取る。  
定期的な防除を実施し、散布間隔が大きく開かないようにする。また、薬剤はローテーションを組んで散布する。  
防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

## 19 コナガ(アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
フェロモントラップによる調査では、誘殺数は平年並である。  
巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。  
(3) 防除上の留意点  
異なる系統の薬剤をローテーション使用し、体系防除を実施する。  
薬剤散布をする場合は、散布ムラのないように、葉裏まで十分薬液がかかるようにする。  
防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

## 20 タマナギンウワバ(アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査ではキャベツに発生がみられたが、平年並の発生である。  
(3) 防除上の留意点  
若齢幼虫は葉裏に寄生しているので、葉裏にも薬液がかかるよう散布する。

## 21 オンシツコナジラミ(野菜・花き)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや少 発生時期：平年並  
(2) 予報の根拠  
巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。  
気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が長い。  
(3) 防除上の留意点  
薬剤による防除は、幼虫の寄生している葉裏に薬液が十分かかるよう散布する。  
防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

## 23 オオタバコガ(野菜・花き)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

9月上旬までの各地のフェロモントラップによる調査では、昨年のような誘殺数が急増した地域は少ない。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

レタスの場合、結球前の防除が重要であるので、結球始期を中心に1週間間隔で薬剤を2~3回散布する。

果菜類等で産卵を認めたら、その数日~1週間後くらいが防除適期である。

防除基準に従って薬剤を選択して散布する。

薬剤抵抗性発達回避のため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

**24 アブラムシ類(野菜・花き)**

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

早期防除に努める。

施設では天敵農薬の利用もよい。

**25 アザミウマ類(野菜・花き)**

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、現在までのところ発生は平年並である。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

防除薬剤が、害虫の寄生している花や葉裏に十分かかるよう散布する。

異なる系統の薬剤をローテーション使用し、散布後は効果を確認する。

施設では天敵農薬の利用もよい。

**26 ハダニ類(野菜・花き)**

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、現在までのところ発生は少ない。

気象要因(+)気温が高く、降水量は少なく、日照時間が多い。

(3) 防除上の留意点

被害を早期に発見する。薬剤による防除は、害虫の寄生している葉裏に薬液が十分かかるよう散布する。

薬剤散布後は効果を確認し、効果の低い剤、及び同一系統剤の使用を避ける。

施設では天敵農薬の利用もよい。